市立貝塚病院広報誌
Kaizuka City Hospital
Vol. 47
2026 秋号

こすもすだより

【ニューストピックス】 座談会

放射線治療のNext Stage（ネクスト ステージ）
～最新放射線治療装置 TrueBeam への期待～

【お知らせ】
患者サロン（がん患者・家族懇話会）のお知らせ
市立貝塚病院市民公開講座のお知らせ
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2026 泉州かいづか
医療講演会のお知らせ
救急医療体制が充実しました！
＝医療従事者向け情報＝
第12回こすもす懇話会レポート

病院の理念　地域住民を支える良質な医療の提供

発行：市立貝塚病院 広報委員会

当院は、「かかりつけ医」からの紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた【紹介受診重点医療機関】で、より専門的な検査や治療を重点的に行う役割を担っています。

かかりつけ医を持ちましょう

「かかりつけ医」と「市立貝塚病院」が役割分担を明確にし協力しあって、質の高い医療を提供できるよう努めています。まずは地域の診療所やクリニックの「かかりつけ医」を持ち、当院での受診が必要な場合は、できるだけ「かかりつけ医からの紹介状」を持参してください。

◆紹介状なしで受診された場合【選定療養費】が必要です。（初診時：7,700円／再診時：3,300円）

座談会

ネクスト ステージ 放射線治療の Next Stage
～最新放射線治療装置 TrueBeam への期待～

放射線治療装置リニアックが役割を終え、最新の後継装置 TrueBeam が６月から稼働しています。駆動速度と精度が大幅に向上した最新装置の導入でネクストステージ（次の段階）に進んだ放射線治療。がん治療そしてがん患者さんと日々向き合う医師達が、放射線治療の今を語り合いました。

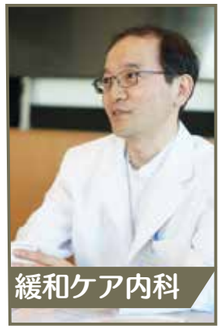
※座談会は７月実施

放射線治療科 部長
川口 善史

副院長
産婦人科 主任部長
横井 猛

副院長
泌尿器科 主任部長
能勢 和宏

乳腺外科 主任部長
大城 智弥



緩和ケア内科 主任部長
川上 寛明

幅広い役割でがん治療に欠かせない放射線治療

根治・緩和・再発予防 様々な役割を果たす放射線治療

【川口】これまでの放射線治療器の導入から 15 年以上経過して、今回は待望の最新装置導入となりました。移行期間中は、院内・院外共に治療受付の一時停止など、大変ご迷惑をおかけしました。

【能勢】放射線治療室も改装されて、患者さんへの配慮とこだわりが詰まった空間になりましたね。泌尿器科の「前立腺がん」は、ロボット支援手術を含む外科的治療と並んで IMRT を根治療法と位置づけています。ですから、IMRT の進化版で更に副作用が少なく１回の治療時間の短い VMAT が使えることは、とてもありがたいです。最近は、ホルモン治療と放射線治療を併用することも多いですし。

【横井】産婦人科では「子宮頸がん」ですね。後は再発病変への照射や緩和照射。骨転移の痛みを和らげる緩和照射はどの科にも共通していますが、産婦人科は出血コントロールのための緩和照射も多いです。

【大城】「乳がん」で乳房温存された方やリンパ節転移が多い場合は、手術後に再発リスクを下げるための予防照射を行っています。転移性乳がんの場合も、症状の緩和や局所治療のために放射線治療は有効ですから、転移性乳がんの患者さんには、放射線治療も一手であることを最初からお話ししています。

【横井】リンパ節転移があったり子宮頸部の外まで出ている子宮頸がんの場合、従来は手術後に放射線を当てることも多かったんですが、抗がん剤や免疫チェックポイント阻害薬と放射線治療を組み合わせた方が、手術よりも予後が良いという結果が出ています。ステージⅡB期以降の子宮頸がんに対して、抗がん剤や放射線・免疫チェックポイント阻害薬などとの組み合わせによって治療成績を上げる。その中での放射線治療の役割に、とても期待しているんです。

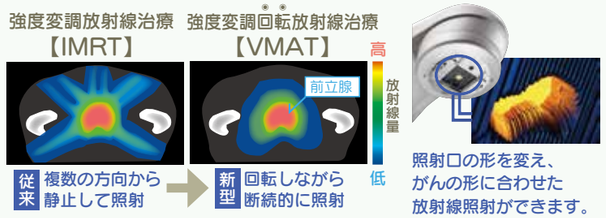
【大城】手術・薬物・放射線治療などを組み合わせてより高い治療効果を目指すのが、がんの集学的治療ですから、放射線治療の役割は本当に重要ですね。

【川上】がんに伴う痛みや身体症状を軽減するための治療も大きな役割ですよね。緩和照射は、辛い症状を和らげて生活の質（QOL）を保つための手段として活用されています。この緩和照射を、是非広く知っていただきたいです。

◆IMRT を回転しながら行う VMAT

IMRT は、放射線照射口の形を照射中に変えることで放射線の強さと形を調節し、複雑な形のがんに放射線を集中させる技術です。

VMAT は、IMRT を回転しながら行い、正常細胞への副作用を抑えより短時間で高精度な治療が可能になります。



最新装置の導入で更に広がる放射線治療の可能性

前立腺がんの放射線治療 治療回数が 38 回から 20 回に半減

【能勢】前立腺がんでの一番のメリットは、治療回数を減らせること。これまでは、平日毎日 8 週間 38 回の照射が必要で、患者さんにとって大きな負担でした。重粒子線であれば 12 回で完了するんですが、大阪北部に数施設しかありませんから、泉州地域の患者さんにとっては遠いですよね。でも今後は 4 週間 20 回にできますので、『泉州 前立腺・排尿ケアセンター』としての役割をしっかり果たせるようになります。

【川口】正常組織への影響を抑えて、一度の治療で高い線量を照射できるようになったからこその短期照射（寡分割照射）です。

【大城】乳がんでも、25 回から 16 回へ短縮しましたね。

【川口】そうなんです。乳がんは若い方も罹患しますし、女性の社会進出という背景を踏まえて、将来的には 5 回程度まで短縮できる可能性もありますよ。

子宮頸がんの放射線治療 副作用の「放射線性腸炎」を軽減する

【横井】子宮頸がんの場合は腸に近いので、放射線性腸炎が課題になってくるんです。IMRT より副作用を軽減できる VMAT を使えば、大幅に減ると期待しています。でも、6 月末の段階ではまだ……とのことでしたが。

【川口】これまで、骨盤全体への照射における IMRT の有用性については議論されていたんですが、当院でも子宮頸がんの根治照射を VMAT で行うようにしたところです。

【横井】そうなんですか！本当にすごく最近の話しなんですね。子宮頸がんの術後照射だけでなく、根治照射でも VMAT ができるようになるのは嬉しいですね。VMAT が使えるなら「根治治療で放射線を使った場合でも有害事象が減る」と言っても大丈夫ですか？

【川口】そうですね。放射線性腸炎や放射線性膀胱炎による下痢や頻尿などの症状は、以前よりは抑えられると思います。

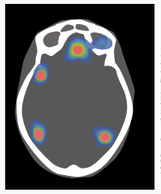
【横井】それはありがたい。患者さんに説明しやすいです。

乳がんに多い「脳転移に対する治療」の可能性を広げる

【大城】乳がんでは脳転移も多いんです。これまで当院では、脳全体に放射線を当てる全脳照射のみで、病変が小さくてγ-ナイフの適応の場合は他施設に依頼していました。これからは、新装置の定位放射線治療でがんを狙い撃ちできるので、その効果に期待しています。かつては、脳転移がある方の予後は 1 年以内と言われていましたが、今では有効な薬もあります。更に定位放射線治療が加わり、脳腫瘍をコントロールする手段が増えたことが嬉しいですね。

◆小さながんにピンポイントで照射する「定位放射線治療」

高線量の放射線を照射し、治療回数は１回～数回と短期集中で行うことが特徴。回転しながら照射することで、多発性転移脳腫瘍などの複数個のがん（4 個まで）にも、一度の照射で対応できます。



◆照射できるエネルギーの種類が増加

治療目的や病変の場所・患者さんの体格・通院回数など、患者さんに応じてより適切な強度の放射線を選択できます。

【X 線】4MV・6MV・10MV（メガボルト）　追加
高線量モード 6MV・10MV
※「高線量モード」では、同じ MV の X 線と比較し最大４倍の放射線量を照射できます。

【電子線】6MeV・9MeV・12MeV・15MeV・18MeV（メガ電子ボルト）

乳がんのブースト照射 弱いエネルギーでの照射で肺を守る

【大城】乳房温存手術後の全乳房照射に加えて必要な場合に行うブースト照射は、新しく加わった弱いエネルギーも使うんですよね。

【川口】胸に厚みの少ない方だと、当てたい場所と肺までの距離が近くなってしまいますが、弱いエネルギーを使えば肺に当たる線量を減らすことができます。選べるエネルギーが増えたことで、患者さんの体格にあったセレクトがしやすくなりました。

台に横たわる治療時間が短縮 体位を保つことが難しい患者さんにも朗報

【川上】痛みのある患者さんは、じっとしていることが苦痛なので横たわって体位をとることが難しい……なので緩和医としては、１回の治療時間が短くなったことが非常に大きなポイントです。

【川口】新装置は、駆動系や制御系が大幅に向上して位置決めの時間が短くなりましたし、照射時間も短くなって、台に寝ている時間が大幅に減りましたよ。固定具や体を支えるためのサポート器具は使いますが、それでも痛みや体力の低下で体勢を保てないために、治療中に動いてしまうことがありました。そうなると、再度位置合わせをして、位置を確認してから照射を再開することになりますので、それだけ余分に時間がかかってしまいます。

【川上】「あと 1 分だから 2 分だから 」と、放射線治療科のスタッフが声掛けしていただいているんですよね。

【川口】治療中の患者さんの声を拾って、診療放射線技師や看護師がモニター越しに呼びかけるんです。特にがん放射線療法看護認定看護師の大島さんは、患者さんに合わせて上手く声掛けしてくれていますよ。演歌が好きな方には演歌を流したりもして。

【能勢】痛みのある方に限らず、硬い台の上で姿勢を保つのは結構なしんどさでしょうね……。前立腺がんの患者さんはご高齢の方が多いですから、治療回数だけでなく１回の治療時間も短くなることは、患者さんの身体的・精神的負担を減らす大きなポイントになると思います。

治療計画のための待ち時間が大幅に短縮 IMRT/VMAT の実施件数の増加へ

【川上】骨転移の緩和照射の話しなんですが、以前、何回か放射線を当てている方で、もう一度当てて欲しいと希望する患者さんがいらっしゃって、その時は IMRT ならできるんだけど準備期間がかかるとのことでした。新装置は IMRT もやり易くなったと聞いたんですが。

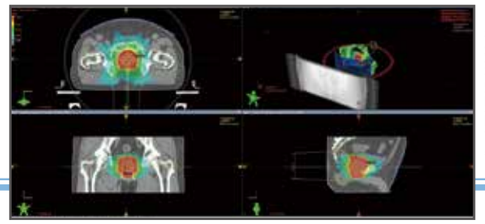
【川口】以前は、治療計画用の CT を受け取ってから２週間はいただいていました。と言うのも、医学物理士の大谷さんが、どう放射線を当てれば効率的かをコンピューターで計算するんですが、１回の計算に 3~4 時間かかり１日に３回位しかできません。繰り返し計算が必要なケースもありますから、時間がかかっていたんです。でも新装置は１回の計算が 10 ～ 20 分と劇的に早くなりました。ですから今は、中３日～１週間まで短縮できていますよ。

【川上】骨転移の緩和照射は、今現在痛みがあるので少しでも早く当てたいと思いますから、対応スピードが上がるのはとてもありがたです。

【横井】骨転移の緩和照射は、基本的に 8Gy1 回の単回照射だと思うんですが、IMRT や VMAT の件数を増やすことができるから、対応できる病状の幅を広げることができるわけですね。

【川口】ええ。例えば脊椎の放射線治療の場合、脊椎の耐容線量があって、それを超えると脊椎麻痺になるリスクがあるのでやりにくかったんです。でも IMRT だと、脊椎の部分を避けることができるので、過去に放射線治療を行った方でも再照射できる可能性が広がるわけです。正直な所、これまでは IMRT での対応を必要な症例に絞らざるを得ませんでした。でもこれからは、効果的にかつ少しでも副作用の可能性を減らすという意味で、VMAT の割合を増やしていくつもりです。

【大城】リンパ節転移が多数ある乳がん患者さんに対する頸部・鎖骨周囲リンパ節の術後照射については、標準的にお願いしていたんですが、傍胸骨リンパ節は部分的に肺に当たりやすいので、放射線肺炎を起こすリスクを考えて症例を選んでいました。放射性肺炎になれば、入院治療を要したり命に関わる方もいらっしゃいますから。今後は VMAT でできるので、より安心して依頼できますね。



《前立腺がん治療計画画面》

必要な時にすぐに相談ー日常のコミュニケーションで診療科連携

緩和ケア内科と緩和ケア病棟を持つ強みをがん診療に活かす

【大城】骨転移が見つかった時は、整形外科の尾上先生に診ていただいて、痛みが強そうなら川上先生をはじめとした緩和ケア内科の先生方に相談して、がん放射線療法看護認定看護師の大島さんに患者さんの話しを聞いてもらって、川口先生に放射線の治療計画をご検討いただいて……診療科を超えた密な連携が必須ですよね。

【川上】緩和照射については、私共からご提案することもあれば、主科の先生から相談を受けることもあります。日常生活に支障が出てくるような痛みや辛さがあり外来での対応が難しい場合は、緩和ケア病棟に入院していただいて集中的にケアします。薬や放射線だけではなくて、例えば骨転移であれば、痛みをできるだけ抑える動作の指導や、ベッドに変えるなど生活環境の提案もさせてもらっています。

【横井】痛みが出ている患者さんについては、個人的に川上先生に相談していますね。一時的に緩和ケア病棟に入院して患者さんの状態を把握してもらった上で、ご提案をいただくこともよくありますよ。心身の苦痛を和らげる緩和ケアの専門医と病院内で密にコミュニケーションできるのは、とても心強いです。

【能勢】本当なら、複数の診療科が 1 人の患者さんに対してどういう治療が最適かを相談するいわゆる「キャンサーボード」を開くべきなんですが、現実的にその時間を取るのは難しいですから……。

【大城】形にとらわれず、タイムリーなキャンサーボードを日常的に行っている感じですね。

【能勢】泌尿器科は、乳腺外科や産婦人科のように患者さんの年齢に幅があったり様々な状態や状況があるわけではないので、そこまでの連携はないですが、診療科の連携を可能にしているのは、各科の看護師さん達の力があればこそだと感じていますよ。

【横井】病状に対するスタンダードな治療法は確立されていますが、個々の患者さんによって、治療に対する受け止め方もその選択も変わってきます。看護師さん達は、患者さんの背景や状況･思いを拾い上げて、他科の看護師と我々医師につないでくれていますからね。

高まるニーズに対応しながら 個別性を重視した診療を実現する未来へ

【川上】厚生労働省の需要推計によると、放射線治療を必要とする患者数は、2025 年から 2050 年にかけて 1.38 倍に増加すると見込まれています。超高齢社会を背景にした高齢患者さんの増加を考えると、体への負担が少ない放射線治療の重要性はますます高まると思っています。

【能勢】疾病によりますが、ご高齢で手術適応外でも放射線なら治療の可能性がある場合もありますから、放射線治療の役割が大きくなってくるでしょうね。

【大城】様々な患者さんがおられますが、多職種・多診療科の連携を密にして、患者さんの状態・背景・希望などに合わせた集学的治療を実現していきたいです。

【横井】そのためには、より効率的な仕組み作りや、人員強化などの体制づくりをもっと進めていかなければなりません。課題はまだまだあると思いますが、まずは今回導入した新装置を最大限活用していきましょう。

そして番外編は続くのでありました

【能勢】僕はね、オリゴメタ（※がんが他の臓器に少数転移した状態）の放射線治療ができる体制が取れればと思っているんです。新装置にはそのポテンシャルがあるでしょ。

【横井】局所がんと多発転移の中間状態。ここでの治療が生存期間に大きく左右しますからね。

【大城】オリゴメタの放射線治療って、前立腺がんでのデータはあるんですか？

【川口】前立腺だけではなくて、いろんながんを含めたデータが出ていますよ。原発巣を根治照射して、少数の転移には定位照射する SBRT（体幹部定位放射線治療）です。これまでなら根治治療ができなかった患者さんにも、根治を目指すのに近い治療をできるようになってきています。

【大城】乳がんはデータを待っているところなんですよ……

※ ――― ※

【横井】産婦人科に関しては、外部照射 25 回は変わらないですか？

【川口】産婦人科は短期照射のスケジュールはまだ試みられていないんです。

【横井】可能性はありますか？

【川口】今の所はまだ見えていませんね。

【横井】そうですか……

※ ――― ※

【大城】この間、乳がん学会で放射線科の先生に聞いたんですが、単回照射のデータがいろいろ出ているんですよね。

【川口】そうですね。単回照射は、骨転移以外の転移病巣にも効果があるというデータが出てきています……

■ 患者サロン（がん患者・家族懇話会）のお知らせ

無料 要予約

「患者サロン」は、ご本人やご家族などが持つ様々な悩みについて、語り合い交流する場。
参加された方々がリラックスできるひと時になれるよう、毎回テーマを決めて開催しています。
病院スタッフへのご質問もどんどん出してください！ 入退室も自由ですので、多くの方の参加をお待ちしています。

開催日時	テーマ	会場
10月14日（水） 14:00 ～ 15:00	外見のお話と相談会 （ちょこっと座談会 15：00 ～ 15：20） 外見や気持ちの変化とうまく付き合うヒントを、みんなで楽しくシェアしませんか。「enjoy 帽」の試着や、ハンドマッサージのミニ講座で、ほっとひと息つける時間を。	市立貝塚病院 4階Ａ会議室
12月9日（水） 14:00 ～ 15:00	ものづくりとおしゃべりの会 （座談会 15：00 ～ 15：20） ものづくりを楽しみながら心が軽くなる時間を過ごしましょう。	

【対象】がん患者さんとそのご家族、または支援されている方
※当院で治療を受けられていない方の参加も可能です。

【申込･お問い合わせ】 ☎ 072-422-5865（代表）／担当：地域医療連携室 ●1階総合案内
●WEB 申込フォーム 検索 市立貝塚病院 患者サロン スマホはこちらから⇒

■ 市立貝塚病院市民公開講座のお知らせ

無料 要予約

あなたとあなたの家族のために人生会議（ACP）◎全4回：単独での参加可

ACP とはアドバンス・ケア・プランニングの略 ――「終活は明日からではなく、いま」
今後の人生についてどう生きたいかを、患者さんが主体となって、家族、医療、福祉と共に考えるプロセスです。

開催日程	時間	テーマ	講師・会場
1部：11月 5日（木）	14:00 ～ 15:00	あなたの意思と、家族の想い	総合診療 医師 舘谷 新一郎 <会場> 市立貝塚病院 7階講義室
2部：11月19日（木）		生きることとは	
2027年 3部： 1月14日（木）		人間の尊厳について	
4部： 1月28日（木）		自分らしい人生	

《手話通訳あり》
手話対応のご希望は開催の1週間前までにご連絡ください。

【申込･お問い合わせ】
☎ 072-422-5865（代表）／担当：地域医療連携室 ● 1階総合案内
●FAX 受付：072-439-6061（お名前・連絡先・講座テーマ・日程をご記入のうえ送信）

■ リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2026 泉州かいづか 医療講演会のお知らせ

リレー･フォー･ライフは、がん征圧を目指し、がん患者や家族・支援者らが夜通し交代で歩いて、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。
市立貝塚病院は毎年このイベントに参加し、講演会なども行っています。
がんのサバイバーとして支援者として、あなたも参加してみませんか。

【日時】10月24日（土）13:00 ～ 25日（日）13:00
【会場】貝塚市役所前（緑の市民広場）

医療講演会「消化器がん外科診療の現状」

2026年 10月24日（土）

【日時】10月24日（土）17:00 ～ 【講師】市立貝塚病院 病院事業管理者 総長 永野 浩昭
【お問い合わせ】☎ 072-422-5865（代表）／担当：医事課

【 救急医療体制 】が充実しました！

地域の皆さまが安心して救急医療を受けていただけるよう、
地域の医療機関や救急隊との連携をさらに強化し
「地域とともに築く、新しい救急医療」の実現を目指しています。

＝ 入院から専門医療まで 切れ目なく対応 ＝

入院や専門的な治療が必要な場合は、当院で継続して診療を行います。また、より高度な医療が必要な場合には、高度急性期医療機関と密接に連携し、患者さんに最適な医療を提供します。

2次救急（内科・外科） 24時間
土曜日＋日曜日も 受け入れ開始

2次救急とは、入院治療や手術が必要な重症患者を対象とした救急医療です。救急車による搬送だけでなく、自力で来院される急患にも対応しています。

平日 ／ 9：00 ～ 17：00
救急科を標榜

救急科専門医を中心に、急な病気やけがに対する迅速な初期診療を行います。

◆重症初期対応医療機関に認定

重症初期対応医療機関とは、緊急を要するものの病状が特定できない患者さんや、心肺停止状態の方に対して、入院や専門治療の前に救急処置などの初期対応（一次的な蘇生やトリアージなど）を行う医療機関です。この認定により、これまで以上に幅広い救急患者の受け入れが可能になりました。

◆小児初期対応医療機関に認定

小児初期対応医療機関とは、緊急度が高い小児救急患者を早期に受け入れ、必要な初期診断を行う医療機関です。

平日 ／ 9：00 ～ 17：00
小児救急 受け入れが可能に

夜間の小児救急については、従来通り
泉州地域医療機関による「輪番制」です。
○市立貝塚病院 金曜／ 19：00 ～翌 6：00
（金曜が祝日の場合／ 23:00 ～翌 6：00）
〈輪番表〉

医療従事者向け情報（地域連携ニュース）

■ 第 12 回こすもす懇話会 レポート

地域の医療機関との連携強化を目的に、6 月 20 日（土）に第 12 回こすもす懇話会を開催しました。当日は地域の医療機関の先生方をはじめ 120 名の皆さまにご参加いただきました。

講演会では、病院事業管理者の永野浩昭による基調講演「地方から地域へ ～山口モデルから知りえたこと～」に続き、「脂肪肝診療に対する当院の新たな取り組み」、「新装置導入による高精度放射線治療」をテーマに一般講演を行いました。質疑応答では活発な意見交換が行われ、たいへん有意義な講演会となりました。講演会終了後の情報交換会では、地域の医療機関の先生方と当院職員が交流を深め、顔の見える関係づくりを推進する貴重な機会となりました。

今後も地域医療連携を一層強化し、地域住民の皆さまに安心していただける医療の提供に努めてまいります。